



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



「地域包括ケアシステム構築を見据えた 平成28年度診療報酬改定(栄養関連)」

当会理事

駒沢女子大学 / 緑風荘病院

西村 一弘 [管理栄養士]

平成28年度の診療報酬改定における栄養関連の改定は、20年ぶりの指導料の改定が話題になっているが、他にも多数の改定があった。主な改定ポイントは、①栄養食事指導点数の見直しは一律に概ね15分以上130点→初回概ね30分以上260点、二回目以降概ね20分以上200点と増加された。②栄養食事指導の対象疾患の拡充としては、がん、接触嚥下機能低下、低栄養、ケトン食が加わった(ケトン食のみ入院時食事療養の特別食加算の対象としても加わった)。③訪問栄養食事指導の文言の削除は、調理を介した実技指導→料理など具体的な提案になった。④経管による栄養剤のみの算定見直しは、市販品の栄養剤のみを使用している場合に、約1割の減算となり、特別食加算の算定もできなくなった。⑤進行した糖尿病性腎症に対する運動指導の評価としては、糖尿病透析予防管理加算を算定している施設で、一定の条件を満たしている場合には、運動指導に対する100点の加算が認められた。⑥NST加算の歯科医師介入による加算は、常勤もしくは非常勤であっても、歯科医師が病院のNSTに参画して介入した場合には、1人50点の加算が新設された。その他にもこれまでは医師の指示項目として、熱量、熱量構成、蛋白質量、脂質量、塩分量の具体的な指示が必要であったが、医師が必要と認める項目になって全ての数値が必須ではなくなり、医師からの指示内容の記載方法が緩和された。

厚生労働省は、これらの改定は地域包括ケアシステムを構築し、円滑に運用していくことを見据えた改定であり、これまでは病院内の栄養管理や病院に通院する患者を中心に介入してきた管理栄養士が、地域医療でも介入しやすくなるための改定であることを示している。④の市販の栄養剤のみによる経管栄養食に対する食費の減算は、社会的入院を繰り返しているような患者に対するマイナス改定であり、地域医療を推進するために①②③に関しては大幅な改定が行われた。次回平成30年度の診療報酬と介護報酬の同時改定は、2025年問題(75歳以上の後期高齢者が成人人口の1/4以上を占める問題)に対応できる体制づくりのため、大胆な改定が予想される。具体的には入院時食事療養制度の抜本的な改正としては、一律であった食費に対する適正な評価の見直しや、特別食加算対象の見直しなどが予想される。

今回は栄養関連の改定について記載してきたが、今後の診療報酬・介護報酬の改定では、医・薬・看等あらゆる分野での抜本的な改正が行われ、医療費や介護費の抑制が示され、地域包括ケアシステムの中で、患者を中心とした医療や介護が行われる仕組みが示されると考えられる。その中で、高齢化した糖尿病患者も地域でケアする体制づくりを、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会が如何にして担っていけるのか、これはこれからの極めて重要な課題であり、使命であると思われる。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。当会会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。)

問題 高齢者糖尿病の特徴で誤っているのはどれか、1つ選べ。

(答えは5ページにあります。)

1. 動悸、冷や汗などの低血糖症状が出現しにくい。
2. 動脈硬化性疾患・癌・感染症などの合併が多い。
3. やせ型の高齢糖尿病患者では、インスリン分泌能の低下を伴っているケースが多い。
4. 運動量が低下し、筋肉量が減少するためインスリン抵抗性が改善する患者が多い。
5. 口渇などの自覚症状の訴えが少ないので、高血糖によりすぐに脱水になる。



研究会等の実施報告

第6回 薬剤師糖尿病指導研究会

平成28年2月6日(土)
国立市商業協同組合 さくらホール

【報告】 当会理事 薬剤師糖尿病指導研究会代表 医療法人社団桜一会 かの内科 菅野 一男 [医師]

2016年2月6日(土)『第6回薬剤師糖尿病指導研究会』が、「高齢者における薬剤管理」をテーマとして開催されました。参加者は51名で、うち薬剤師が37名でした。

一般講演は、「糖尿病患者の居宅療養管理指導の意義を考える」と題しまして、森貴幸先生(くにたちウラン薬局)にご講演いただきました。在宅訪問薬剤管理指導と居宅療養管理指導の違いについてご説明いただいた後、くにたちウラン薬局でどのように取り組んでいるかを実際の患者さんも交えてご紹介いただきました。

特別講演では、横山宏樹先生(自由が丘横山内科クリニック 院長)より「最新の糖尿病診療」と題しまして、新しい薬剤の使用経験なども含めて高齢者に適した治療方法などをご紹介いただきました。自由が丘横山内科クリニックにおける診療の流れや服薬率に関するデータの紹介、SGLT-2阻害薬の高齢者に対する使用など、非常に参考になる内容でした。

その後の総合討論では認知症のある高齢者の服薬管理などについて質問があがり、家族や周りにいる人たちの見守りを促すことや低血糖を起こさない治療法を選ぶなど安全面に配慮した対応が大切であるなどの意見があがり、門前薬局の薬剤師が患者さんにどのように関わっていけばよいのかとの議論で大いに盛り上がりました。



横山先生



森先生

研究会等の実施報告

かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会
第6回例会平成28年2月19日(金)
国分寺労政会館

【報告】 当会評議員 かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会副代表 たもり内科クリニック 多森 芳樹 [医師]

『かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会 第6回例会』を平成28年2月19日(金)19:30～、国分寺労政会館で行い、13名の方にご参加いただきました。今回も症例検討という形で、日頃の外来診療での問題点・疑問点を掘り下げました。

今回のテーマは“骨折”でした。2型糖尿病患者さんの骨はもろく骨折しやすいといわれています。骨折の一次予防・二次予防をどのようにしたらいいのか？皆様もご苦労されていることと思います。今回は、のむらクリニックスクエアの野村敦宣先生から、“骨折を繰り返す、認知症を合併した83歳女性”の症例をご提示いただきました。コメンテーターには、高村内科クリニックの植木彬夫先生・名嘉眞香小里看護師、立川相互病院内分泌代謝内科の住友秀孝先生に加え、立川相互病院 整形外科の江口直先生にお越しいただき、次の4点について、質疑応答・議論が展開されました。

- ①高齢者糖尿病患者の骨折予防はいかにするか？
- ②低血糖は骨折リスクになるか？
- ③高齢者慢性関節リウマチのステロイドを含めた薬剤選択
- ④骨折既往のある高齢者糖尿病患者の骨粗しょう症管理



野村先生



江口先生

高齢者の糖尿病患者さんは今後増加が予想されています。高齢者糖尿病診療において、骨折一次予防・二次予防、骨粗しょう症対策・認知症への対応は重要な課題であることを再認識いたしました。



研究会等の実施報告 第43回 糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成28年1月29日(金)立川市女性総合センター・アイム
平成28年2月23日(火)ルミエール府中

【報告】 当会評議員 登録管理栄養士 医療法人社団糖和会 近藤医院 飯塚 理恵 [管理栄養士]

『第43回糖尿病食を作って食べて学ぶ会』を1月29日立川、2月23日府中で開催し、計32名の参加がありました。今回は「季節の野菜をおいしく食べよう！」というテーマで、大根、白菜などの冬野菜をとり入れたメニューを実習しました。レクチャーでは魚と野菜と一緒に食べる方法について説明しました。参加者からは「サラダはトッピングの豆に味があって薄味でもおいしかった。」「ホワイトソースを簡単に作れるのがわかった。」「今度から魚と野菜を組み合わせるようにしたい。」「白玉を作るのが楽しかった。」などの声が聞かれました。

次回第44回調理実習は、4月26日立川、5月27日府中にて開催します。内容は再度リクエストのあった油を抑えたえびチリです。レクチャーでは果物の食べ方についてお話しします。第45回の調理実習は7月立川、8月府中にて実施します。日程と内容の詳細は事務局にお問い合わせください。調理実習は開催から10年以上経過したため、リピーター様の高齢化が進み、最近立川の参加者が減少しています。参加をお勧めしたい患者様が施設にいらっしゃいましたら是非お声かけください。親子、ご夫婦のご参加も受け付けています。どうぞよろしくお願い致します。



今回のメニュー

- ・もち麦入りごはん
- ・たらものムニエル
クリームソースかけ
- ・大根と豆のサラダ
- ・ブロッコリーのコンソメ煮
- ・南瓜と白玉のデザート



研究会等の実施報告

第2回 糖尿病とWell-aging研究会

平成28年2月27日(土)
三鷹産業プラザ

平成28年2月27日(土)に三鷹産業プラザにて、『第2回糖尿病とWell-aging研究会』が開催され、42名の方が参加されました。

第1部では、貴田岡正史先生の司会のもと、「Well-agingを目指すための高齢糖尿病患者の生産性活動の現状」と題して、東京医科大学八王子医療センター 松下隆哉先生に高齢者の健康目標は生産性活動を重要視することについて、また、「高齢糖尿病患者の身体活動及び運動を阻害するもの」と題し、東京医科大学八王子医療センター 天川淑宏先生に高齢者の日常生活での運動の重要性をご講演いただきました。

第2部では、植木彬夫先生の司会のもと、「糖尿病患者をがんで見取る時代」と題して、国立がん研究センター中央病院 科長 大橋健先生より、現在糖尿病患者の死因の1位はがんであり、糖尿病と癌の発症に共通項が多いこと、がん患者の糖尿病治療は癌の抑制にもつながることなどをお話いただきました。ご講演の最後に、新たな抗がん剤(ニボルマブ)使用による劇症1型糖尿病症を含む1型糖尿病発症に注意を喚起されました。

最後に、当研究会の代表世話人である植木彬夫先生から、高齢糖尿病患者が有意義な人生をおくることをテーマにした「糖尿病とWell-aging研究会」を開催する意味は大きいことを閉会の辞としていただき、盛会のうちに終了しました。



松下先生



天川先生



大橋先生

研究会等の実施報告

NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 糖尿病災害対策委員会
東日本大震災から4年目を迎えて～いま私たちが考えること～平成28年3月11日(金)
立川市女性総合センターアイム

【報告】 当会理事 糖尿病災害対策事業担当理事 医療法人社団ユスタヴィア 宮川 高一 [医師]

この原稿を書く直前、熊本で大地震がありました。極めて多くの方々が出なくなり、依然として大勢の方々が行方不明になっておられます。お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれた皆様の救済と一日も早い被災地の復興を心からお祈り申し上げます。また私の知っている熊本の糖尿病の先生方も困難な中、医療を継続しておられます。糖尿病学会もIDDMネットワークもいち早く支援に向かっています。私たちも微力ながら、支援していきたいと思っています。

今回の地震は普段からの備えが極めて大切であることを教えてくれました。私たちはこの間「サバイバルマニュアル」を作成し、年2回の講演会を継続してきました。3月11日に行った「災害への備えを忘れない～火山災害を学ぶ」では、まず東京都薬剤師会副会長の大木一正先生から、「備蓄薬剤について～糖尿病患者における現状」をお話いただきました。この5年間でずいぶん整備されてきていることも感じましたが、今回の熊本の経験からやはり超急性期の対応は課題があると感じています。次に山梨県峡南広域行政組合消防本部 警防課 警防係長 特別救助隊隊長の渡邊亨先生から「火山と都市災害について～糖尿病患者はどう対応するか?」のご講演をいただきました。火山災害もまたこの地域では大きな危険性があります。生々しい御嶽山の救護活動の経験をお話いただきました。生死を分けたのは事前の準備であったとのことでした。きちんとした装備をしていた人が火山弾や寒さから身を守れたこと、懐中電灯を持っていた位置を知らせた人が実際助かったことなどを話していただきました。さらに装備品として、必ず笛を持参するとよいとのこと。倒壊した建物内で圧迫されて声が出なくても自分の所在を知らせることができる必需品であると感じました。また糖尿病患者では低血糖対策も必要なことを救護活動の実例を通して話していただきました。

私たちの地域は直下型地震と富士山の噴火の危険性が指摘されています。今後も熊本の救護活動の経験から学びつつ、準備を怠らないようにしていきたいと思っています。



研究会等の実施報告

第13回 西東京インスリン治療研究会

平成28年3月5日(土)
吉祥寺東急REIホテル

『第13回西東京インスリン治療研究会』は、「インスリンと経口血糖降下薬の併用を考える」をテーマに3月5日(土)吉祥寺東急REIホテルにて開催されました。今回は計97名の医師・コメディカルの方々にご出席をいただきました。

冒頭に「最新の話題から」というトピックで、杏林大学医学部附属病院の西田進先生に『糖・脂質代謝異常と骨代謝』をご講演いただき、一般演題では、コメディカルの視線から立川相互病院の菅原加奈美先生に『個別性に合わせたインスリン療法支援について』、また、実臨床での使用経験をもとに東京医科大学の植木彬夫先生に『インスリンとSGLT2阻害剤の併用について』をご講演いただきました。特別演題では、ほたるのセントラル内科の内田大学先生から『インスリン療法の新たな展開～経口薬の力を引き出すコツ～』を、東京都健康長寿医療センターの荒木厚先生から『認知機能や身体機能を考慮した高齢者のインスリン治療』をご講演いただきました。

いずれも、現場でおきている問題点も含めインスリンと併用薬の有用性とリスクマネジメントについて非常にわかりやすくご講演いただき、質疑応答なども活発な会となりました。

次回は2017年3月上旬に吉祥寺にて開催予定です。次回のテーマは「GLP1製剤 ～インスリンとの併用を巡って～」となっております。糖尿病治療薬が多様化する現代におけるインスリンをはじめとする薬剤の役割について再度検討をしていきたいと考えております。次回も多数の医師及びコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。



研究会等の実施報告

第37回 東協多摩ブロック糖尿病教室
第22回西東京糖尿病患者会連合特別講演会平成28年3月19日(土)
一橋大学

平成28年3月19日(土)13:00より、一橋大学 東2号館2201教室におきまして、『第37回東協多摩ブロック糖尿病教室・第22回西東京糖尿病患者会連合特別講演会』が68名の参加者を集めて開催されました。

相談コーナーでは、看護師、管理栄養士、健康運動療養士の先生方に参加者の日常生活の悩みや質問にお答えいただきました。

続いて、かんの内科 院長 菅野一男先生を座長に講演1「糖尿病と日々の食事」では、緑風荘病院健康推進部栄養室 管理栄養士・健康運動療養士の藤原恵子先生より、日々の食事で摂るべき栄養素や栄養バランスなどをわかりやすく解説していただきました。トピックス「糖尿病患者さんが旅行を楽しむために」では、菅野先生より患者さんが旅行をする際に気を付けるべきことや、より快適に楽しむために知っておくと良い情報を菅野先生著の小冊子を用いながら詳しくお話いただきました。

講演2「私の糖尿病体験談」では、日赤さくら会 蜂須賀敏夫様より糖尿病を発症してから34年間のご苦労や治療の変遷など、長年糖尿病と付き合ってきたからこそ存じの歴史や経験談をお話いただきました。

最後に特別講演「糖尿病と共に生きる」では公立昭和病院内分泌・代謝内科部長 貴田岡正史先生を座長に、愛知医科大学 医学部内科学講座 糖尿病内科 教授 中村二郎先生よりこれまで大学病院で多くの患者さんと接してこられたご経験をもとに、合併症発症や薬物治療についてなど、糖尿病との向き合い方をわかりやすく丁寧にお話いただき、盛況の中、会を閉会いたしました。

研究会等の実施報告

第17回 南多摩糖尿病教育研究会

平成28年3月24日(木)
日本医科大学多摩永山病院

【報告】 当会評議員 南多摩糖尿病教育研究会代表 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]

3月24日(木)、日本医科大学多摩永山病院にて、本会は「糖尿病内服薬のビットホール」をテーマにて開催した。

森貴幸先生より「服薬指導・疑義照会」をテーマに、インスリン治療中の高齢2型糖尿病患者、主治医に内緒で市販のサプリメントを服用している症例提示をいただき、「主治医が知らずに健康食品やサプリメントを使用する患者をどう防ぐか、疑義照会をするか、疑義を受けたいか」という問題提起をいただいた。栗栖啓充先生から「退院時服薬指導」をテーマに、インスリン治療中の女性、服薬コンプライアンスも悪くインスリン注射も忙しければスキップする、食事療法・運動療法についても問題のある症例提示をいただき、「薬の管理の改善をどのようにするのか、食事・運動・服薬とどの点を優先し指導を実施するべきか」という問題提起をいただいた。

ディスカッションでは、森先生の症例提示については「サブリではなく、食事・運動による改善効果への気づきを与えるよう促していくこと」、「サブリに薬物との相互作用があれば医師に伝えるべき」などの意見が出た。栗栖先生の症例提示については「注射回数を現実的にできる回数まで減らしモチベーションを上げるのはどうか」などの意見を発表いただいた。

本城聡先生の「糖尿病内服薬の注意点」と題したまとめとレクチャーでは、高齢者における薬剤の注意点を概説いただき、特にDPP-4阻害薬による慢性関節リウマチを来した症例提示より、原因薬剤と気が付かないリスクについてレクチャーいただいた。

次回は、2016年10月13日(木)に日本医科大学多摩永山病院にて「多職種で行う栄養指導」をテーマに開催を予定している。

答え
解説

4

下記の解説をよく読みましょう。(問題は1ページにあります。)

2015年ガイドブックのP142および144参照のこと。

4. はインスリン抵抗性が亢進している患者が多い。加齢とともに耐糖能は低下するが、その機序として加齢に伴うインスリン分泌の低下に加えて身体活動量の低下や筋肉量の低下、体脂肪増加などによるインスリン抵抗性の増大が上げられている。

研究会等の実施報告

NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 企画委員会主催
第11回 学術講演会平成28年4月9日(土)
国分寺労政会館

【報告】 当会理事 企画委員会委員長 立川相互病院 住友 秀孝 [医師]

東京大学大学院理学系研究科 生物化学専攻 黒田真也先生より、「インスリン作用のシステム生物学」のご講演をいただきました。インスリン作用に関連する時間情報の理解には、まずインスリン分泌周期の理解が重要であること、追加分泌と基礎分泌の違いと基礎分泌は15分おきの周期性分泌があること、そしてこの周期性分泌が2型糖尿病患者さんでは消失することをご説明いただきました。インスリン作用は、まず肝細胞で発現します。インスリン受容体後のAKT以降の経路において、まず蛋白合成には急峻な門脈血中のインスリン濃度上昇が関与すること、グリコーゲン合成にはこの急峻なインスリン濃度上昇は不要であること、糖新生抑制には基礎分泌が重要であり、やはり急峻な濃度上昇は不要であることを説明されました(これをボトムアップアプローチといいます)。次に、インスリン作用により、リン酸化された物質(リン酸プロテオミクス)とその代謝産物(メタボロミクス)を計測することにより、インスリンによるリン酸化を介した代謝のネットワークを解明・再構築する研究(トップダウンアプローチといいます)について概説されました。糖尿病を含む各種疾患において、どのような異常をきたすために発症するのかが今後の治療に応用可能とのことでした。



黒田先生

普段の日常臨床では、強化インスリン療法がどのように作用し、患者さんへの治療効果として発現しているのか。より深い理解のためには、血糖・グリコヘモグロビン値の情報だけでは、まだまだ不十分であり、この領域の益々の進歩が期待されます。



研究会等の実施報告

第20回 TAMA生活習慣病フォーラム

平成28年4月9日(土)
調布市文化会館たづくり

【報告】 当会理事 TAMA生活習慣病フォーラム代表 かたやま内科クリニック 片山 隆司 [医師]

平成28年4月9日(土)に調布市文化会館たづくりにて、『第20回TAMA生活習慣病フォーラム』が開催されました。テーマは「患者を支える最強チームのつくり方 ～“個の力”、そして組織力の向上へ～」。今回は、第20回という記念すべき会ということもあり、特別講演に京都より大石内科クリニック 大石まり子先生をお招きし、コーチングに関するご講演をいただきました。

第Ⅰ部 基調講演では、府中よつやクリニック 市川雅先生より、「糖尿病の診療連携におけるチームとは」ということで、基幹病院や薬局との顔の見える連携の重要性をお示しいただきました。また、「医師は5分間耳を塞いでください」として、診療所のチーム連携の現状は、診療所の院長がエースで4番気取りであるため縦型の傾向であるが、ブルーサークル型であるべきことの重要性をご教示いただきました。第Ⅱ部 特別講演では、大石まり子先生より、コーチングの3原則として、①双方向のコミュニケーションであること、②相手に合ったコミュニケーションスタイルをとること、③継続的にコミュニケーションを交わすことをご提示いただきました。また、コミュニケーションタイプを4つのパーソナリティーに分けて相手を理解することの大切さ、そして承認することの大切さをご教授いただきました。第Ⅲ部 パネルディスカッションでは、当クリニックの石黒清美看護師より、不規則勤務にて血糖変動をくり返すインスリン治療中の1症例をご提示いただき、各パネリストより各職種からの視点でできることを提案していただきました。

終了後のアンケートにおいても、回答いただいた全員から次回も参加したいというコメントをいただいております、これまで以上の反響と共に当フォーラムへの期待を実感することができました。



市川先生



片山先生



大石先生



石黒先生



当会の事業・委員会活動のご紹介

-『西東京糖尿病と感染症フォーラム』の活動-



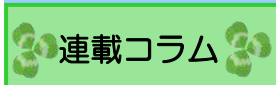
当会理事長 西東京糖尿病と感染症フォーラム代表
イムス三芳総合病院

貴田岡 正史 [医師]

糖尿病の患者さんは感染症にもかかりやすく重症化しやすいことが知られています。1991年から2000年における糖尿病患者の死因の全国統計をみると、感染症は第1位の悪性新生物、第2位の血管障害に次ぐ第3位でした。過去の統計をみると年々増加傾向を認めており、日本人一般の死因と比較しても常に糖尿病患者の方が高頻度であることが報告されています。

糖尿病では、多核白血球、単球、リンパ球の機能が低下しており、感染に暴露したときにこれらの細胞の接着、遊走、食食、殺菌作用などが低下し、その結果、全般的な免疫能の低下がみられます。また、高血糖による脱水、インスリン不足による糖代謝障害、神経障害、血管障害による血流不全のために組織への栄養と酸素の供給が遮断され、抗菌剤等の治療薬の組織移行も悪化することにより、糖尿病患者の感染症が重症化すると考えられています。2009年に新型インフルエンザが日本で流行し始めた時には、糖尿病患者は妊婦や悪性疾患治療中の患者と同様に感染時に重症化が予想されるため、予防接種の優先接種対象となりました。

このような背景により『西東京糖尿病と感染症フォーラム』を発足し、第1回では「糖尿病患者における感染症」、「糖尿病の第6番目の合併症：歯周病」の講演を賜っております。今までの研究会にはない新しい切り口として、これからも継続・発展させていきたい会と考えています。



連載コラム

～ Hot Topics ～



「膵島関連抗体 抗ZnT8抗体」

当会副理事長

東京医科大学

植木 彬夫 [医師]

亜鉛(Zn)は酵素の働きに重要な必須ミネラルです。亜鉛不足による味覚異常や性機能に影響することは有名です。また膵臓において単体のインスリンを6個結合し6量体の結晶を作るために必要です。6量体ができないと膵臓から門脈内に分泌された単体のインスリンは肝臓で簡単に分解されてしまい体内のインスリン不足を招くと考えられています。

最近の研究では2型糖尿病では亜鉛を輸送する亜鉛輸送タンパク8(ZnT8)が低下していることが示されています。一方、1型糖尿病ではこのZnT8に対する自己抗体が2007年に発見されました。1型糖尿病はさまざまな膵島関連の自己抗体がありこの抗体によりB細胞が破壊されることが原因です。そのなかで抗GAD抗体や抗IA-2抗体は1型糖尿病の原因となる主な抗体ですが、すべての1型糖尿病で陽性になっているわけではありません。海外では1型糖尿病の67%で抗ZnT8抗体が陽性であったと報告されてますが、国内の報告では急性発症47%、緩徐進行35%とされています。亜鉛トランスポーター8(ZnT8)抗体の測定はまだ保険診療はできませんが、大手検査会社では昨年から検査の受注が開始されました。1型糖尿病の可能性があるが抗IA-2抗体、抗GAD抗体、インスリン抗体などが陰性の場合には、抗ZnT8抗体の測定で1型糖尿病を発見でき、診断効率を上げることが期待されます。

研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

◆ 第30回 武蔵野糖尿病研究会

申込必要

開催日：平成28年6月18日(土) 14:50～16:30

場 所：三鷹産業プラザ 7F 701・702号会議室(JR「三鷹駅」南口徒歩7分)

参加費：500円

申 込：同封のお申込み用紙にて、FAXでお申込みください。(6/10(金)締切)

FAX：03-6418-3890(宛先：富士フイルム ファーマ(株) 曾根 / 問合せ：kentaro.sone@fujifilm.co.jp)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

□ 糖尿病診療－最新の動向[医師・医療スタッフ向け研修講座] 第35回 東京会場

申込必要

開催日：平成28年6月19日(日) 10:00～15:20

場 所：国立国際医療センター 研修センター 5階 大会議室

参加費：3,000円(テキスト代を含む)

申 込：糖尿病ネットワークのオンライン申込みページよりお申込みください。(6/16(木)締切)

申込みURL：<http://www.dm-net.co.jp/event/ncgm-dm.html>

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中 他 ※詳細は当会ホームページをご覧ください。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 直接事業
 ☒ 間接事業
 ☐ その他

☒ 第29回 武蔵野糖尿病医療連携の会 学術講演会

☐ 申込不要

開催日：平成28年7月2日（土）17:00～19:00
 場所：立川グランドホテル 4階「カルロ」（JR「立川駅」北口徒歩2分）
 参加費：医師 1,000円 / 医師以外 500円
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中
 ☆日本医師会生涯教育制度：2単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

☒ 平成28年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

☐ 申込必要

＜看護系＞ 第13回 西東京糖尿病教育看護研修会 ＜臨床検査系＞ 第1回 西東京臨床検査研修会
 ＜栄養系＞ 第13回 西東京病態栄養研修会 ＜運動療法系＞ 第1回 西東京運動療法研修会
 ＜薬剤系＞ 第13回 西東京薬剤研修会 ＜フリーコース＞

開催日：平成28年7月3日（日）9:25～16:55（開場9:10）
 場所：北里大学・薬学部 白金キャンパス
 （JR山手線「恵比寿駅」徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」徒歩13分）
 参加費：申込時期によって価格が変わります。
 [3/7～5/22] 5,000円 / [5/23～6/27] 6,000円
 申込：当会ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の
 「平成28年度 西東京糖尿病療養指導プログラムの申込はこちらから」より
 お申込みください。（6/27(月)締切）

※詳細は同封の資料でご確認ください。

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中
 ※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は＜第1群＞の単位数は、研修会毎に異なります。また＜第1群＞と＜第2群＞の単位はどちらか一方のみ認められます。

5つの研修会に加えて、休憩時間中に全ての研修会を移動できる＜フリーコース＞があります。（※但し、取得できる単位は西東京糖尿病療養指導士のみ）
 5つの研修会及びフリーコースそれぞれで受付をします。参加申込みする研修会を間違えないようにお気を付けください。

参加費の支払い後、受講票（兼決済完了通知）をメールでお送りしております。受講票は受付時に必要ですので当日まで保管をお願いします。

☒ 第10回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

☐ 申込必要

テーマ：『高齢者のための運動療法』
 開催日：平成28年7月24日（日）現地集合8:30 解散時間17:00
 場所：八王子市立看護専門学校（JR・京王線「高尾駅」南口より京王バス[ハ04]6分「北館が丘」下車徒歩2分）
 参加費：当会会員 4,000円 / 一般 6,000円（いずれも昼食代含む）
 申込：当会ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（7/18(月)締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中
 ☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位：＜講義＞3.3単位申請中 ＜実習＞3.0単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

☒ 西東京CDEの会 第15回 例会

☐ 申込必要

テーマ：『知って得する連携手帳活用術 ～手帳に魂入れてチーム力アップ!!～』
 開催日：平成28年7月30日（土）15:30～19:00
 場所：国分寺Lホール（国分寺駅ビル8階）
 参加費：当会会員 1,500円 / 一般 2,500円
 申込：当会ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（7/21(木)締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

発行元

NP0法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No. 3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
 http://www.nishitokyo-dm.net
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



4月の熊本地震で被災した多くの人たちに心を寄せながらの日々です。糖尿病学会においてもこのことが取り上げられたのではないのでしょうか。
 突然くる災害にどう「備える」か、「備え」の大切さ・重要性を患者さんに何度でも伝えなければなりません。そして、私たちも「備え」ましょう！自分を守ってこそ、支援・援助が出来るのですから。
 （広報委員 岡崎 扶美恵）